スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

茨城県　利根町

自 治 体 名 ：　茨城県北相馬郡利根町
担 当 課 名 ：生涯学習課　社会体育係
電 話 番 号 ：　0297-68-2211

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	24.9㎢
人口	15,470 人
公立中学校数	1 校
公立中学校生徒数	281人
部活動数	12 部活 (運動部:10・ 文化部:2)
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	策定済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

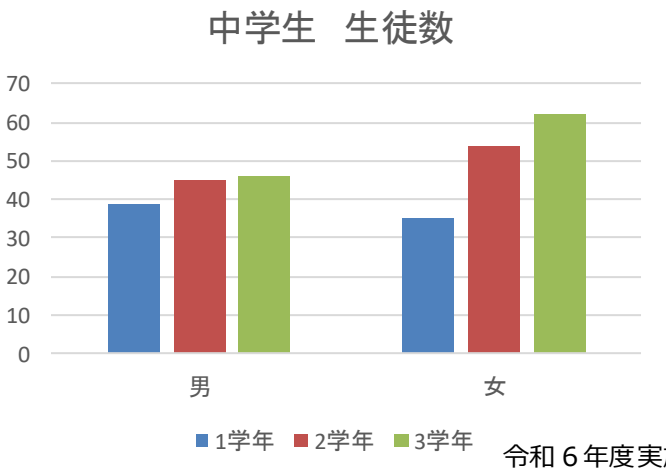
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

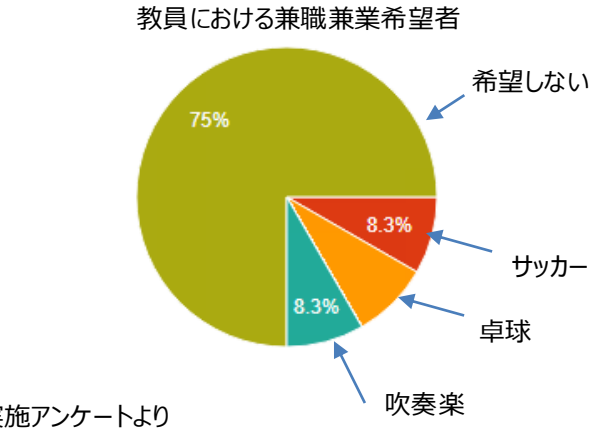
利根町は，茨城県の最南端に位置しており，中学校数は利根中学校の1校のみとなっている。

町内唯一の中学校である利根中学校は，令和６年度より全校生徒が300名を下回る中規模校で10の運動部活動（軟式野球部，サッカー部，男子ソフトテニス部，女子ソフトテニス部，卓球部，男子バスケットボール部，女子バスケットボール部，バレー部，バドミントン部，剣道部）と２つの文化部活動(吹奏楽部，美術部)があり，現在の所すべての部活動に複数顧問を配置し，活発に活動している。

現在の地域移行クラブでは，すべての部活動を移行しており，月に2回の頻度で活動を行っている。また，活動をしない土日については，普段の部活動として実施している。

今後も少子化による生徒数の減少が見込まれるため，生徒数に応じた部活動数の精選，指導に不安を感じていたり，休日の指導を望まなかったりする教員（働き方改革）への対応を含めた部活動改革を推進する必要がある





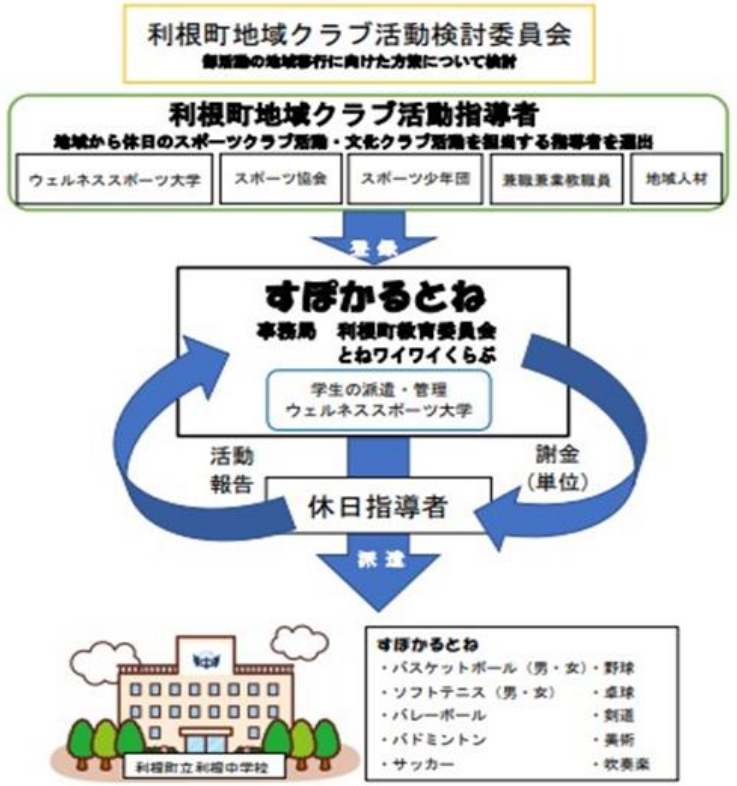
令和６年度実施アンケートより

2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会

・生涯学習課・・・部活動改革の主幹。中学校との連絡調整。指導者，参加者保護者との事務連絡。予算等に係る事務。参加者，指導者募集の案内。保護者，中学生，教員に対し説明会の開催。

年間の事業スケジュール

令和６年５月	第１回検討委員会　開催
令和６年６月	生徒･保護者説明会　開催
令和６年７月	第２回検討委員会　開催
令和６年７月	地域クラブ活動「すぽかるとね」活動開始(月２回)
令和６年11月	第３回検討委員会　開催
令和７年１月	次年度中学生生徒･保護者説明会開催
令和７年２月	小学生児童･保護者　説明会開催
令和７年２月	第４回検討委員会　開催
令和７年２月	令和６年度地域クラブ活動終了

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1 校	実施した地域クラブ総数	12 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		11 クラブ（10部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		1 クラブ
全体の指導者数	13 人	全体の運営スタッフ数	4 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
野球クラブ	教育委員会	野球	月 2 回	AM8:30−11:30	1年：8人 2年：2人 3年：2人	R6,7月～R7,2月	利根中学校第２グラウンド	2 人	4 人（内，兼務4人）	0円	なし
サッカークラブ	教育委員会	サッカー	月 2 回	AM8:30−11:30	1年：4人 2年：4人 3年：0人	R6,7月～R7,2月	利根中学校第１グラウンド	1 人	4 人（内，兼務4人）	0円	なし
卓球クラブ	教育委員会	卓球	月 2 回	AM8:30−11:30	1年：3人 2年：7人 3年：0人	R6,7月～R7,2月	利根中学校多目的室	1 人	4 人（内，兼務4人）	0円	なし

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
剣道クラブ	教育委員会	剣道	月 2 回	AM8:30−11:30	1年：0人 2年：2人 3年：2人	R6,7月～R7,2月	利根中学校武道場	1 人	4 人 （内，兼務4人）	0 円	なし
バスケットボールクラブ(男子)	教育委員会	バスケットボール	月 2 回	AM8:30−11:30	1年：1人 2年：1人 3年：1人	R6,7月～R7,2月	旧文小学校体育館	1 人	4 人 （内，兼務4人）	0 円	なし
バスケットボールクラブ(女子)	教育委員会	バスケットボール	月 2 回	AM8:30−11:30	1年：2人 2年：2人 3年：2人	R6,7月～R7,2月	旧文小学校体育館	1 人	4 人 （内，兼務4人）	0 円	なし
バレーボールクラブ	教育委員会	バレーボール	月 2 回	AM8:30−11:30	1年：1人 2年：2人 3年：7人	R6,7月～R7,2月	旧文間小学校体育館	1 人	4 人 （内，兼務4人）	0 円	なし
バドミントンクラブ(男子)	教育委員会	バレーボール	月 2 回	AM8:30−11:30	1年：2人 2年：0人 3年：1人	R6,7月～R7,2月	利根小学校体育館	1 人	4 人 （内，兼務4人）	0 円	なし
バドミントンクラブ(女子)	教育委員会	バドミントン	月 2 回	AM8:30−11:30	1年：1人 2年：9人 3年：2人	R6,7月～R7,2月	利根小学校体育館	1 人	4 人 （内，兼務4人）	0 円	なし

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
ソフトテニスクラブ(男子)	教育委員会	ソフトテニス	月 2 回	AM8:30－11:30	1年：1人 2年：6人 3年：0人	R6,7月～R7,2月	利根中学校庭球場	1 人 (男女指導)	4 人 (内，兼務4人)	0円	なし
ソフトテニスクラブ(女子)	教育委員会	ソフトテニス	月 2 回	AM8:30－11:30	1年：3人 2年：6人 3年：0人	R6,7月～R7,2月	利根小学校庭球場	1 人 (男女指導)	4 人 (内，兼務4人)	0円	なし
身体つくりクラブ	教育委員会	基礎トレーニング(新)	月 2 回	AM8:30－11:30	1年：0人 2年：0人 3年：0人 参加者がいない為，バドミントンと合同で活動	R6,7月～R7,2月	利根小学校体育館	2 人	4 人 (内，兼務4人)	0円	なし

2.実証内容と成果

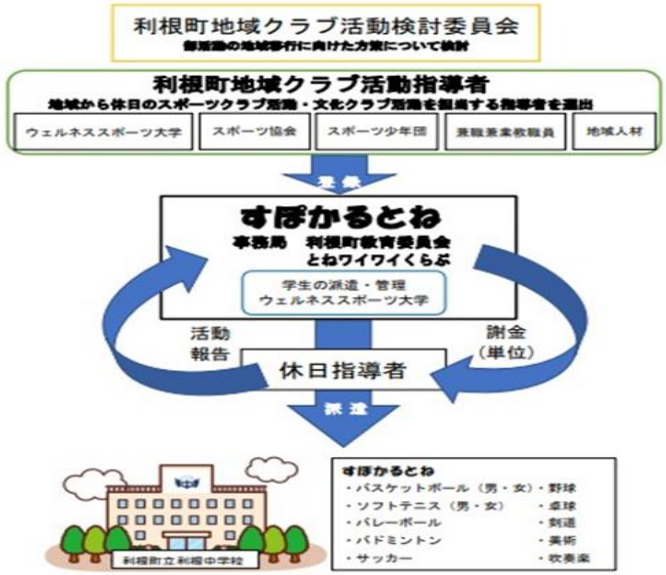
スポーツ庁

主な取組例

●野球・卓球・剣道クラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	野球・卓球・剣道
運営団体名	すぽかるとね(教育委員会)
期間と日数	野球・卓球・剣道： 7月13日 ～ 2月22日 月2回程度
指導者の主な属性	野球：地域指導者 卓球：兼職兼業教職員 剣道：日本ウェルネススポーツ大学生
活動場所	野球：利根中学校　第2グラウンド 卓球：利根中学校　多目的室 剣道：利根中学校　武道場
主な移動手段	自転車
１人あたりの参加会費等（年額）	０円
１人あたりの保険料	スポーツ安全保険

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者

役割：活動における管理者として学校，保護者，指導者と連絡を行う

●主任指導者　野球：２名　卓球･剣道：１名

役割：活動における主任者として，生徒への指導を行う

●運営補助者　３名

役割：活動において施設の管理，運営補助を行う

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

〇クラブ参加者（生徒）及び指導者（兼職兼業教員，地域指導者，日本ウェルネススポーツ大学）に対して，事務局（教育委員会）がリーバー（情報一斉配信アプリ）やコミュニケーションアプリを使用し，活動参加者数，活動の可否などの情報共有を行っている。

〇コーディネーターが定期的に活動現場を見回りすることで，指導者や参加者の意見や声を聴くことができる。

取組の成果

〇事務局(教育委員会)が参加者と指導者の間に入ることによって管理が行いやすい，情報共有が行いやすくなった。

〇コミュニケーションアプリを導入することによって，指導者と参加者の出欠席・事務連絡を簡単に行うことができるようになった。また，アプリを使うことで，参加者が事務局に意見や質問をしやすい環境を作ることができた。

コーディネーターの具体的な動きの実績

【総括コーディネーター】

〇定期的に各クラブを巡回し参加者・指導者の活動内容の把握

〇検討委員会の調整等を実施し，関係団体との連携に努めた

〇学校，参加者，指導者への連絡調整を実施

今後の課題と対応方針

〇参加者によっては，連絡がないことや当日の出欠席がないことがある。

〇当日，連絡のない欠席者は，事務局が電話連絡をして確認をしている現状がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

・兼職兼業教員の活用。
また，地域住民に募集を行い指導者の確保を行っている。
・町内の日本ウェルネススポーツ大学に通っており，高い技術と専門知識を学んでいる学生を指導補助員とすることで，クラブ参加者に専門性的な技術や知識を使った指導補助を行っている。

人材バンクの人数

13名

人材バンクの年齢構成

10代	2名
20代	1名
30代	1名
40代	4名
50代	2名
60代以上	3名

登録者属性

職業
・会社員　8名
・学生　2名
・教員　2名
・主婦　1名

種目

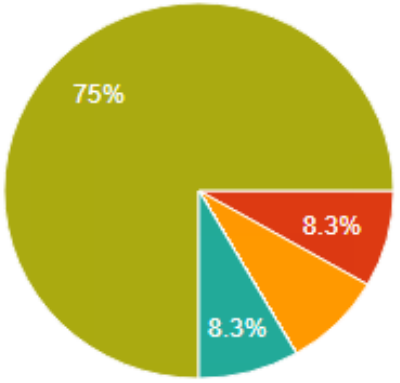
・野球　・サッカー
・卓球　・バドミントン
・バスケ　・バレー
・剣道　・ソフトテニス

資格有無

・教員免許
・剣道3段
・軟式野球連盟審判員
・公認審判員1級
・健康運動指導士
・健康運動実践指導者
・スタートコーチ

取組の成果

・休日の学校部活動から地域クラブ活動に移行するにあたり，部活動顧問は3割弱のみ地域クラブでも指導したいという結果になった。
・地域クラブ活動で指導する指導者には，事前にコンプライアンス研修を受講してもらい中学生に指導を行うことの責任感を意識してもらった。
・日本ウェルネススポーツ大学の学生が指導者として参加することで，専門的な知識や高い技術を持って指導にあたってもらう。



令和６年度に実施した教職員向けアンケートより

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

【コンプライアンス研修】

・対象・・・地域クラブ活動指導者

・目的・・・地域指導者が中学生に指導するにあたって，言葉遣いや行動を改めて研修することで，ハラスメントにつながらないために実施した。

・工夫した点・・・指導資格を持っている指導者から経験者まで同じように研修を受けることで，クラブごとに言葉遣いの差やハラスメントにつながらない行動の理解など指導者の意識の統一ができた。

指導者研修の参加実績

・開催日：　7月 2日

・開催回数：　1 回

・参加人数：　12 人(文化クラブ含む)

受講者の声

〇コンプライアンス研修を受講して，指導者として自覚のある行動が必要だと感じられた。現代の指導方法と指導者が教わった指導では，かなりの差があるため，一つの言動，行動がハラスメントにつながってしまわないように注意が必要だ。

今後の課題と対応方針

〇地域指導者が指導するにあたって，経験者と未経験者・有資格者と無資格者での中学生に対する指導の差が発生しないように研修を実施する必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

〇学校と連携して進めていくため，中学校校長会やPTA連合会等において，本町の取組及び今後の見通し等の説明を実施。

〇指導者の派遣，施設の利用，研修教材の提供・講師派遣などについて日本ウェルネススポーツ大学と連携。

取組の成果

〇中学校校長やPTA会長と連携し，学校の協力を求めることで，中学校の生徒に事前周知や募集チラシの配布を行うだけでなく，全校集会で活動の周知をする機会を得た。

〇地域のスポーツ団体の協力を得て，地域指導者の発掘・確保を行った。

〇クラブが活動するときは，指導者の負担が増えない様に，会場の施錠，開場や参加者の出欠確認などを行う運営補助員の配置を必須とし，その運営補助員を地域の関係団体等から派遣することで，地域一体となって運動部活動の地域移行に向けた環境づくりを進めた。

今後の課題と対応方針

〇競技団体や総合型地域スポーツクラブ，民間事業者等の多様な団体に参画してもらう必要があるため，更なる連携強化を図る。

〇運営の効率化を図るため，アプリを活用した参加者の参加確認の確保について検討する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実①

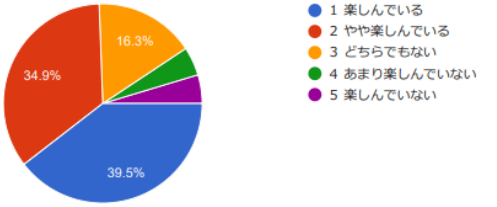
取組事項

〇利根町では，中学校にある部活動(11部活動)＋町独自の活動(身体つくり)を地域クラブ展開し，参加者が好きな活動に参加できるように「すぽかるとね」として活動を行った。

〇「すぽかるとね」は，大会参加を目的としない参加者が初めてでも楽しめるようにレクリエーション的な活動を行った。

〇町内にある「日本ウェルネススポーツ大学」と連携して活動に学生を指導者として派遣してもらう等，将来指導者を目指す学生に環境の場を提供することができた。

活動の詳細

参加人数	109 人	指導者数	15 人
属性	スポーツ		
具体的な内容	〇休日における，スポーツ活動の実施。 (野球・サッカー・卓球・男女バドミントン・バレー・男女バスケ・男女ソフトテニス・剣道・身体つくり) 〇初心者でも参加できやすいように，レクリエーション的な活動を実施。		
子供の声	〇部活動では，文化部だが「すぽかるとね」ではスポーツクラブに参加している。 〇体力・技術を向上することができた。 〇友達と楽しく参加することができた。		
関係者の声	〇参加人数が少ない時もあったが，参加者が活動種目が好きなんだなってことがよくわかった。 〇活動から，子どもたちにスポーツの楽しさを知ってもらえたらいいなと思います。		
運営経費	〇指導者謝金 〇事務局運営し 〇消耗品 〇検討委員謝金		

令和６年度実施アンケート「地域クラブ活動を楽しんでいますか」

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

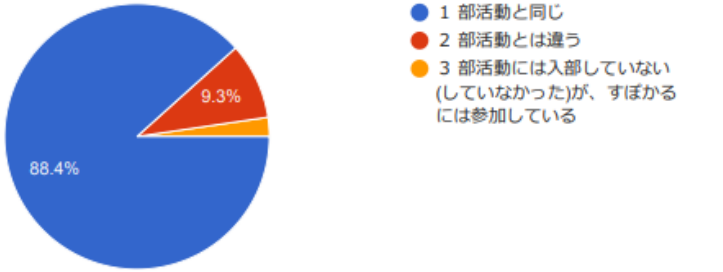
取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実②

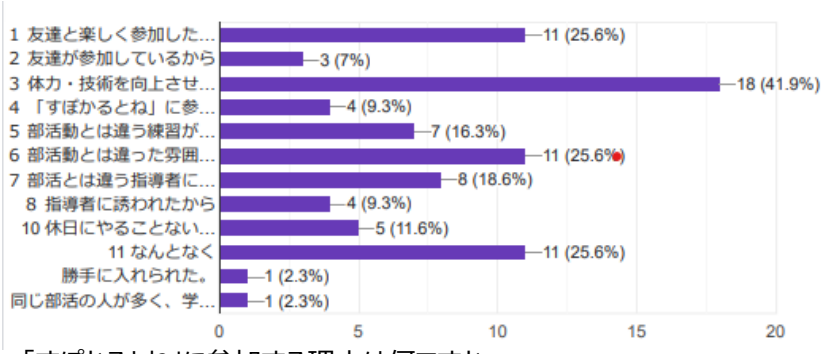
取組の成果

〇令和６年度の利根町地域クラブ活動「すぽかるとね」では活動数を12クラブ展開して活動を行った。部活動から同じ活動に参加できる，また，部活動とは違うクラブ活動に参加できるようにレクリエーション的に行った。

〇活動日は，月に２回程度隔週の土曜日を基本的に行い，参加は事前にコミュニケーションアプリを使用し参加の有無を確認した。コミュニケーションアプリを使用することで休みの連絡や活動の中止を円滑に行うことができた。



「すぽかるとね」に参加している種目は，部活動と 同じですか，違います



「すぽかるとね」に参加する理由は何ですか

・令和６年度実施アンケート

今後の課題と対応方針

〇町内に中学校生徒数が令和６年度時点で生徒数が300名を下回っており，「すぽかるとね」の参加者も少ない状況となっている。

〇今後は，活動クラブ活動の縮小。また，今後は中学生だけではなく，小学生も参加できるような取り組みを検討する必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

取組事項

〇利根町地域クラブ活動「すぽかるとね」では，利根中学校の体育施設を中心に活動を実施した。令和６年度は，中学校体育館が改修工事の影響で使用できなかったが，町内小学校や学校跡地の体育館を使用することで活動を行った。

取組の成果

〇活動場所を学校施設にすることで，中学生の安全の確保や活動による防音問題を発生することなく実施することができた。
〇野球・サッカー・ソフトテニスなどは普段から学校部活動で使用している場所で活動しており，参加者も活動しやすくなっている。



体育施設を利用している様子

今後の課題と対応方針

〇普段の生活場所及び部活動の場所と同じため，地域クラブと部活動が区別できていないこともあったため，さらなる事業趣旨の理解等が必要となってくる。
〇学校での活動は，鍵などのセキュリティ問題や生徒の個人物の管理など注意が必要なものが多く，破損・紛失など問題が発生しないかなど注意が必要である。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

〇地域クラブ活動を実施するにあたって，普段では関わることがない地域の指導者に学ぶことで普段の学校生活では経験することができない技術や専門知識を知ることができたと思われる。

〇学校施設以外で活動することで，部活動とは違うこと。また。地域指導者を地域住民に地域クラブ展開を知ってもらえることができ，新しいコミュニティを作ることができる。

〇利根町は中学校の生徒数が少なく，地域クラブに参加する生徒も少ない。そのため，活動するクラブ数を検討する必要がある。小学生の参加や参加してない中学生に活動内容の周知や興味を持ってもらうことが大切である。今後は参加者数の増加させるためにも検討が必要である。

●成果の評価

〇今年度地域クラブ活動の展開を行って，部活動から地域クラブに展開していることを理解してもらうことができたと思われる。

〇地域クラブ活動には部活動のように，引退は無く，３年生でも最後まで続けられるが，受験と勉強によって開始時期よりも最後の方は参加率が悪くなってしまうことが多かった。

〇競技によっては，参加者数が少なく中止となってしまうこともあった。中学校や検討委員会と連携を図りながら，今後の活動数を決めていく必要がある。

●今後に向けて

〇利根町の生徒数が減少しているため，活動クラブ数も検討する必要がある。今後は中学生だけではなく，小学生もクラブに参加できるようにすることで参加者の増加を見込むことができる。しかし，中学生と小学生では技術の差だったり，参加人数が増加することで指導者の数が不足してしまう可能性がある。

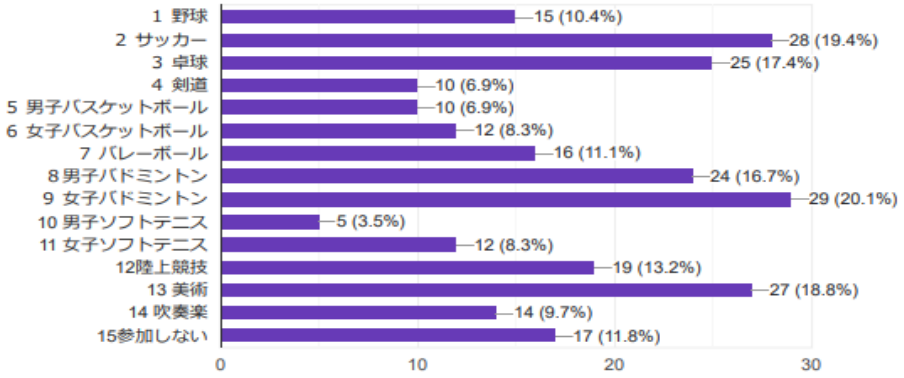
2.実証内容と成果②

スポーツ庁

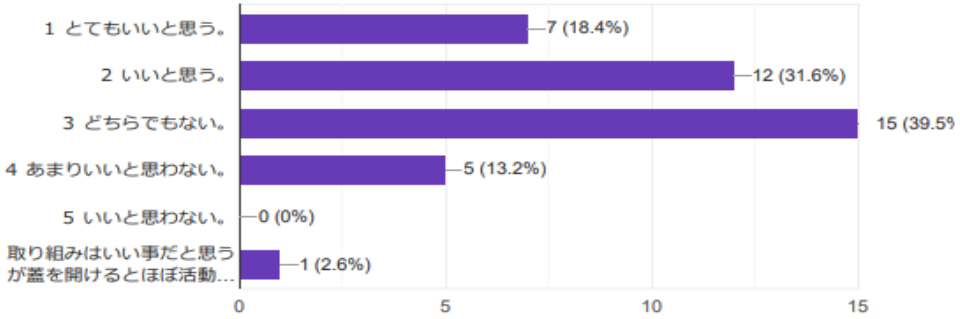
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

Q.来年度参加してみたい地域クラブ活動はありますか？(小学生)



Q.部活動から地域クラブへの展開に伴い指導者が学校の先生から地域の指導者に代わることについてどう思いますか？(参加者保護者)



●指導者の声

指導者
〇感覚的指導論を取り入れ，わかりやすい野球を指導目標として活動させていただきました。部 活動以外の野球を楽しんでプレーしている姿，また部活での試合で活躍できたことがとても嬉しく思いました。

指導者
〇初めての指導で，迷いながらでしたが，中学生の明るさで，楽しく過ごせました。

指導者
〇参加人数は少なかったものの，参加する子供たちはバスケが好きなことはよくわかった。

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

参考資料（活動写真）



【ソフトテニスクラブ】



【野球クラブ】



【バスケクラブ】



【バドミントンクラブ】